

「毎月1号の発行」を目標にしていた校長便りですが、諸般の事情で…主な理由は私の怠慢です…三カ月以上も未発行となってしまいました。「今更」という気持ちもありますが、私の視点からの今年度の津山商業の記録を残すことには、何がしか意味があると思うので、第8号を発行します。

二学期の終業式の式辞で、生徒たちに次のような話をしました。

……二学期の終わりにあたり、私が最近知って「いいなあ」と思った言葉を皆さんに紹介します。

「教えるとは、ともに希望を語ること。学ぶとは、誠実を胸に刻むこと」

今から70数年前にルイ・アラゴンというフランスの詩人が書いた「ストラスブール大学歌」という詩の一節で、「希望」の部分を「未来」と訳して「教えるとは、ともに未来を語ること。学ぶとは、誠実を胸に刻むこと」という解釈もあるそうです。

ストラスブール大学は長い歴史と伝統のあるフランスの大学で、アラゴンが詩を書いた背景には大変なドラマがあるのですが、話していると長くなるので止めておきます。それに私がこの言葉を紹介したのは、ストラスブール大学でなくても、フランスでなくても、日本でもどこでも、「学校なら本来そうあるべき」ということを、シンプルな言葉で表現しているから。ちょっと難しい言葉で言い換えれば、普遍的な学校の存在意義の表明だからです。

だから、当然本校にも当てはまる言葉のはずです。実際、本校の先生が生徒である皆さんに「教える」ことは、テストでいい点をとらせたり検定に合格させたりするのが最終目的ではなく、一緒に未来の希望を語り合える人間を育てるためのものです。そんな人間になるために「学ぶ」べきことは、誠実に生きるための姿勢や知恵です。さらに、そうした学びを「教える」のは先生だけではありません。皆さん自身が互いに「教え」合ったり、時には先生が皆さんから「教え」られたりもします。私も例外ではありません。二学期の間だけをとっても、体育祭の競技を巡るやりとりや津商モールをよりよくするための取組等、皆さんの言葉や行動、姿勢から色々と教えられました。

「教えるとは、ともに希望(未来)を語ること。

学ぶとは、誠実を胸に刻むこと」

ちょっとカッコよすぎる、キレイごとすぎる、と感じる人もいるかもしれませんが、キレイごとを正面切って言えるのは素晴らしいことです。今の津山商業高校は「ともに希望を語り合い教え合い、誠実に生きることを学んでいる生徒と教員の学校だ」と、校長として正面切って言える学校です。……

ストラスブール大学歌の一節は、昨年度広島大学を御退官後に4月から安田女子大学にお勤めの田中宏幸先生が、11月17日に本校で行われた高教研国語部会秋季研究大会の講話で御紹介くださったものです。田中先生は長年私が恩師と仰ぎ、御専門の国語だけでなく、教育のあらゆる面で指導助言をいただいている方です。もちろん津商型学習指導研修会の御指導も、3年連続でお願いしました。

11/17の公開授業の1コマ→



式辞に述べたとおり、普遍的な学校の存在意義を端的に示した箴言だと思いますし、「教える」ことは、教師からの一方通行ではなく、教師と生徒が、また生徒が相互に、さらに教師同士が「ともに未来の希望を語ること」だという捉え方は、今まさに求められている教育の方向性でしょう。そして津山商業は…これも式辞にあるとおり…それを実践し、成果を上げている学校です。

その一例が11月25日の津商モールでした。1年生有志の出店、各店舗コンセプトシート作成、全県へのアピールのため社長・副社長がOHKの番組「なんしょん？」に出演など、レインボー・プロジェクトの中心行事にふさわしい新しい取組がなされた今年のモールでしたが、中でも心が震えた出来事を、同プロジェクトの報告書の巻頭言に記しました。

教師冥利に尽きる—自分が指導する生徒の目を見張るような成長ぶりに遭遇した際、教師が抱く思いです。教師なら誰でも抱きたいけれど、なかなか抱きにくい思いでもあります。しかし幸いなことに、2年間の「つしょうレインボー・プロジェクト」の中で、「教師冥利に尽きる」と感じられる生徒の姿に何度も遭遇できました。

その最たるものが、今年の津商モール終了直後に国立教育政策研究所の長田調査官からの質問に答えた、社長・副社長を務めた3年生3人の次の言葉です。

後輩達へ一言

「挑戦することが大切。怖がらず、やりたいと思ったら積極的にチャレンジを」

先生方へ一言

「私たちの無理を受け止めてくださったことに感謝」

「一つのチームとして陰で動いてくださった。おられなかったら成功しなかった」

「おかげで自分たちの未熟さを実感できた」

「言いたいことは遠慮せずに言ってほしい。モールに関して対等な立場で話がしたい」

感謝したい人は？

「店頭価格も仕入れ時間も特別。こんな無理に対応してくださった企業の方々」

「『モールが楽しい』と笑顔で帰ってくださり、嬉しい気持ちをくださったお客様」

「安心感と心の支えをくれ、準備の時から遅い帰宅を待って入れてくれた家族」

「自営業で店頭に立つ母が、販売のコツや商品陳列の方法を教えてくれた。こうした会話ができたことに感謝！」

「つしょうレインボー・プロジェクト」で育成を目指したチャレンジ力・状況把握力・チームワーク力・コミュニケーション力が、しっかり血肉となっていくことが分かる堂々とした受け答えぶりに、心の底から「この事業※注に取り組んで本当によかった。教師冥利に尽きる…」と感じ入ったのでした。…

※注：国立教育政策研究所教育課程関係指定事業（教科名：特別活動）



↑ 社長・副社長によるモール収益金の寄付

生徒だけではありません。10月6日の津商型学習指導研修会では大ベテランで進路指導課長の高見先生（商業）が、2年目の萱嶋先生（国語）と共に研究授業を行ってくれました。また前掲の11月17日には、非常勤の金田先生を含む国語科の先生全員による公開授業の実施もあり、まさに「教師同士が、ともに未来の希望を語る」べく研鑽に努めました。

「津商と津商生は確実に前に進んでいる!! 課題はあるけれど…」そんな実感と共に二学期を終了することができました。

1月9日の三学期の始業式。新年早々に飛び込んできた星野仙一さんの訃報を受け、式辞に前任校の倉敷商業高校で見聞した星野さんの人柄が偲ばれるエピソードを紹介しました。

…生前の星野さんの足跡や人となり、親しかった人たちのコメントなどが語られている記事やワイドショーを目にして、どんなに星野さんが人々に親しまれ愛されていたかを、改めて実感しました。

愛された理由は、もちろんプロ野球選手そして監督としての輝かしい実績や「燃える男」「闘将」と呼ばれた野球にけるポジティブな姿勢もありますが、それだけでなく、周囲への目配りや気配りを忘れない人柄があったことを、様々なエピソードとともに各ニュースは伝えていました。

私も、そんな星野さんの人柄に間近で接した経験があります。

知っていると思いますが、星野さんは倉敷商業の卒業生です。6年前の平成24年、倉商が創立百周年を迎えた年に、私は教頭として倉商に勤めていました。事前準備の中で、式典の後の記念講演の講師をOBの星野さんをお願いしようということになったのですが、当時楽天の監督で大変お忙しいこともあって、講演の依頼は受けておられないとの情報が入ってどうなることかと気をもんだのですが、「ぜひ倉商の後輩たちのために」とお願いすると、快く引き受けてくださいました。

当日の星野さんのスケジュールは、飛行機で東京から講演開始の直前に会場に到着し、講演会終了後直ちに仙台に向かうためとんぼ返りというもので、もし天候不順で飛行機が遅れたり、最悪飛ばなかったりしたら…と、会の進行役の一人としてずっとやきもきしていました。

幸い、予定通りに星野さんは到着され、「燃える男」のイメージそのままの力強さで、夢を持って努力することの大切さを後輩にあたる倉商生たちに語られました。そして講演が終わるやいなや会場を後にされました。

星野さんの訃報の中の「周囲への気配り、目配りの人」に接して鮮明に思い出されたエピソードです。

星野さんがどこでそういったお人柄を育んだのか。御主人を早く亡くされて女手一つで星野さんを始め三人のお子さんを育てられたお母様の「周りの人を大事にきなさい」との教えがあったそうですが、私は星野さんが商業高校で学んだことで、野球という部活動に打ち込んだことで、その教えを、頭と体にたたき込むことができたのではないかと思います。

物の売り買い・お金の流れを通して様々な人と出会い、その出会いを大切にしてwin winの関係作りを目指す商業の学び、勉強の片手間でははなく真の文武両道としての野球部の活動、その経験が星野さんに「周りを大事にすることで自分が生かされる」ことを理屈だけでなく実感として教えたのではないのでしょうか。

残念ながら直接伺うことはもうできませんが、6年前の星野さんの倉商に対する姿勢を思い出すと、的はずれではない気がします。

皆さんにも、星野さんのように人々に愛され親しまれる人になってほしいと思います。もちろん、野球の世界で、ではありません。「周りを大事にすることで自分が生かされる」ことを目指す商業という学びを、しっかり頭と体にたたき込み、星野さんにおける野球のように、それぞれが最も自分の良さを表現できるものを見つけて、それを通してです。

新しい年の始まりであると同時に、今年度の締めくくりでもある三学期。

3年生にとっては、卒業までのカウントダウンの時、1・2年生は1年間の総まとめの学期です。かけがえのない時間を愛おしみつつ、意義深いものにしていくことを期待します。

平成30年1月18日（木）